

書式2

教育研究業績書		
令和 5 年 3 月 31 日		
氏名 堀田 浩之		
研究分野	研究内容のキーワード	
幼児教育史・指導計画	日本の幼児教育の歴史（指導計画・保育内容を中心に）を振り返りつつ、現在の保育内容や指導計画と対比していく。	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践例	平成29年9月～ 平成31年3月 令和4年9月～ 令和5年3月	幼児教育学科2年生：ゼミナールにて、卒業研究を指導 テーマ 「月刊保育絵本を指導計画や実践現場でどのように活かしていけるか」 「月刊絵本を作ってみる」 「保育教材を使って保育を発展させていく方法」 「月刊保育絵本の内容の決め方と傾向について調べる」
2. 作成した教科書、教材	平成30年3月 平成30年3月 令和元年7月	『知のゆりかご つながる保育原理』第12章 「日本の保育思想と歴史」とつながる、株式会社みらい 担当科目「保育原理」で使用 保育雑誌『あそびと環境 0.1.2 歳』1歳児指導計画コーナー指導案監修、学研教育みらい 担当科目「乳児保育」「保育課程総論」で使用 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ 科学的観察力と優しい心』 第1章「乳児保育とは」の中の、「2. 乳児保育に求められる保育者像」及び「3. 乳児保育の普及と一般化」の執筆を担当 建帛社 担当科目「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」で使用
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		

4. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成27年7月	一般社団法人 滋賀県保育協議会主催 平成27年度 家庭的保育事業基礎研修 講義「家庭的保育事業の概要」(滋賀短期大学)
	平成28年7月	長野県子育て支援員研修講座担当(ニチイ学館)
	平成28年11月	阿智高等学校にて2年生対象の大学講義体験授業「保育内容総論」講師
	平成29年3月	白馬高等学校にて、2年生対象の大学講義体験授業「保育内容総論」講師
	平成29年4月	伊那西高等学校にて、2年生を対象の大学講義体験授業「保育内容総論」講師
	平成29年5月	伊那西高等学校2年生対象の大学講義体験授業「保育内容総論」講師
	平成30年9月	飯田女子高等学2年生対象の大学講義体験授業「保育内容総論」講師
	令和元年7月	塩尻志学館高等学校2年生対象の大学模擬授業「保育内容総論」講師
		篠ノ井高等学校犀狭校2年生対象の大学模擬授業「保育内容総論」講師
	令和2年8月	兵庫県立尼崎高等学校 教育と絆コース1年生40名 保育体験「言葉」絵本を中心とした保育の体験講座講師
	令和2年10月	兵庫県立伊丹西高等学校 総合ヒューマン類型1年生 保育の仕事について 保育の仕事に就くために必要なことなどの講師
	令和2年11月	甲子園学院高等学校連続講座5年一貫コース2年生 保育所実習に向けて「乳幼児の生活③」講師
	令和2年12月	甲子園学院高等学校連続講座5年一貫コース2年生 季節の行事について「お正月のあそび」
	令和3年3月	甲子園学院高等学校連続講座5年一貫コース2年生 季節の行事について「春・夏・秋・冬の行事」
令和3年5月	兵庫県立伊丹西高等学校 総合ヒューマン類型2年生 保育の仕事について 保育の仕事に就くために必要なことなどの講師	
令和3年5月	甲子園学院高等学校連続講座5年一貫コース1年生 「手作り絵本」講師	
令和3年9月	甲子園学院高等学校連続講座5年一貫コース2年生 「手作り絵本発表会」評価者	

	令和4年1月	甲子園学院高等学校連続講座5年一貫コース 2年生 季節の行事について「春・夏・秋・冬の行事」 講師
	令和4年1月	甲子園学院高等学校連続講座総合コース2・ 3年生 絵本について
	令和4年5月	甲子園学院高等学校連続講座総合コース2・ 3年生
	令和4年6月	文章の書き方・まとめ方 甲子園学院高等学校連続講座5年一貫コース 2年生 手づくり絵本制作③進捗状況確認

5. その他		
--------	--	--

職務上の実績に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	昭和57年3月 昭和57年3月 平成29年8月	中学校教諭一級普通免許状取得（社会科） 昭五六中一普め第三〇九五号（免許更新講習未） 高校教諭二級普通免許状取得（社会科） 昭五五六高二普め第三三一七号（免許更新講習未） 地域子育て支援士二種（認定番号202193）
2. 特許等		特記事項なし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成27年7月 平成28年7月・ 平成29年7月 平成29年11月 平成30年1月 平成30年2月 平成30年2月 平成30年4月	一般社団法人 滋賀県保育協議会主催 平成27年度家庭的保育事業基礎研修 「家庭的保育事業の概要」講義 長野県子育て支援員研修「保育原理」株式会社ニチイ学館 長野県キャリアパス（伊那市・松本市） 保育所保育指針研修：3年～7年目の保育士対象 下伊那郡保育協会研修講師 保育所保育指針改定について講演 長野県私立保育園協会研修講師 保育所保育指針改定について講演 松川町子育て支援課研修 保育所保育指針改定について講演 飯田仏教保育園保護者会 保護者向け講演会講師「子どもの成長と親の

	平成 30 年 5 月・ 6 月	援助 飯田女子短期大学公開講座（3 年未満の保育者対象） 「新・保育所保育指針」
	平成 30 年 7 月	幼保連携型認定こども園慈光幼稚園 研修会 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 講師
	平成 30 年 7 月	長野県下伊那郡阿南町保育士会研修会講師 「保育所保育指針」
	令和元年 6 月	飯田女子短期大学公開講座講師 「保育に活かす・保育所保育指針～幼児期の終わりに育って欲しい姿と小学校との接続～」
	令和元年 7 月	飯田女子短期大学公開講座講師 「幼児教育におけるアクティブラーニングとは」
4. その他	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月	兵庫県伊丹市・社会福祉法人植村慈仁会 伊丹市ベビー保育園（現・社会福祉法人 和の会伊丹おうち保育園）評議員 飯田女子短期大学生涯学習センター長就任 各種公開講座の企画・立案・運営をはじめ、 高等学校への出前講座の企画立案や短大と地域との連携、 附設の子育て支援施設の管理・運営なども行った。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 『 <u>知のゆりかご つながる保育原理</u> 』	共著	平成 30 年 3 月	株式会社 みらい	日本の保育思想と歴史とつながる <u>日本の保育思想や幼児教育・保育の歴史について</u> 、古代の思想や江戸時代の思想・幼児教育も構想に触れながら、 <u>明治・大正から昭和 20 年までの近現代の幼児教育の制度や思想について述べ、現代とのつながりを示した。</u> 担当：第 12 章「日本の保育思想と歴史」 著者：堀田浩之、井上孝之、小原敏郎、三浦主博他
2. たっぷり年中行事シアター	共著	平成 30 年 12 月	ひかりのくに株式会社	保育現場で使える様々なシアターを紹介する本書において、 <u>保育現場に向けての使い方や年中行事に関する内容などを</u>

<p>(教育実践記録等)</p> <p>1.「保育内容総論」指導法へのアプローチ～月刊保育絵本を使った演習の試み～</p> <p>2.雑誌『あそびと環境 0・1・2歳』</p> <p>3.指導の記録</p> <p>4.改訂版これなら書ける！0歳児の指導計画</p> <p>5.改訂版これなら書ける！</p>	単著	平成30年3月～	飯田女子短期大学教育研究論文集、第1巻第2号	<p><u>チェック・精査して誤りなどを正した。</u></p> <p><u>また、年中行事に関するコラムを執筆し、年中行事の由来などを示した。</u></p> <p>著者：ひかりのくに編集部編</p> <p><u>保育内容総論は幼稚園教職課程・保育士養成課程で必修である。今回それぞれの養成課程の見直しが進められ、平成31年度から新しいカリキュラムへの移行が決まっている。それを見越して、平成29年度保育内容総論の授業の中で月刊保育絵本を使った授業を試みた。今後の幼稚園教諭・保育士養成課程に向けてのより深い学びについて考える。</u></p>
	共著	平成30年3月～令和2年3月	学研教育みらい	<p>1歳児の指導計画監修：毎月現場の保育所から示される指導計画について校閲・監修を行い、より一般的な指導計画に変換していき、読者に提供するべく平準化を図っている。</p> <p>(pp.72～75)</p>
	共著	平成30年10月	ひかりのくに株式会社	<p>保育現場で記録簿として広く使用されている『指導の記録』であるが、この度の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂・改定に伴い、幼稚園保育所児童保育要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録などの改訂も視野に入れつつ全編の内容を見直し、精査し校正・校閲を行った。</p>
	共著	平成31年2月	ひかりのくに株式会社	<p>編集部より示された全ての指導計画について校正・校閲・監修を行って間違いを正し、より一般的な指導計画に変換していき、全体に整合性を図り、読者が自分なりに立案できるようにしていった。</p>
	共著	平成31年2月	ひかりのくに株式会社	<p>編集部より示された全ての指導計画について校正・校閲・監修を行って間違いを正し、より</p>

1 歳児の指導計画				一般的な指導計画に変換していき、全体に整合性を図り、読者が自分なりに立案できるようにしていった。
6.改訂版これなら書ける！ 2 歳児の指導計画	共著	平成31年2月	ひかりのくに株式会社	編集部より示された全ての指導計画について校正・校閲・監修を行って間違いを正し、より一般的な指導計画に変換していき、全体に整合性を図り、読者が自分なりに立案できるようにしていった。
7. 月刊保育とカリキュラム 2019年4月号 特別付録 年の計画	共著	平成31年3月	ひかりのくに株式会社	毎年、月刊保育とカリキュラム4月号の特別付録となっている年間指導計画（年の計画）の校正紙に目を通し、各年齢の指導計画や解説等を精査し、内容は言葉遣い・誤字などの校正を行った。
8. 乳児保育 I・II 科学的観察力 と優しい心	共著	令和元年7月	建帛社	「第1章 乳児保育とは」の中の、「2. 乳児保育に求められる保育者像」及び「3. 乳児保育の普及と一般化」の執筆を担当し、乳児保育における保育者像を明らかにした。また、日本における乳児保育の歴史と現状について述べている。 (pp.7～13)
9. 月刊保育とカリキュラム 2020年4月号 特別付録 年の計画	共著	令和2年3月	ひかりのくに株式会社	毎年、月刊保育とカリキュラム4月号の特別付録となっている年間指導計画（年の計画）の校正紙に目を通し、各年齢の指導計画や解説等を精査し、内容は言葉遣い・誤字などの校正を行った。
10. 月刊保育とカリキュラム 2021年4月号 特別付録 年の計画	共著	令和3年3月	ひかりのくに株式会社	毎年、月刊保育とカリキュラム4月号の特別付録となっている年間指導計画（年の計画）の校正紙に目を通し、各年齢の指導計画や解説等を精査し、内容は言葉遣い・誤字などの校正を行った。
11. 西村真琴とその仕事 －『保育』の発刊とその意義－	単著	令和3年3月	甲子園短期大学紀要 第39号	「日本のフレーベル」と呼ばれ戦前・戦中保育団体の理事長として活躍した西村真琴が関わった保育者向け雑誌『保育』が発刊されたその意義について

12. 月刊保育とカリキュラム 2022年4月号 特別附録 年の計画	共著	令和4年3月	ひかりのくに株式会社	明らかにする試みを行った。 毎年、月刊保育とカリキュラム4月号の特別附録となっている年間指導計画（年の計画）の校正紙に目を通し、各年齢の指導計画や解説等を精査し、内容は言葉遣い・誤字などの校正を行った。
13. 本学における教育の質保証と学習成果の可視化	共著	令和4年	甲子園短期大学紀要 第40号	中央教育審議会より示された多様性と柔軟性を確保した学びの質保証再構築を求める提言を踏まえ、本学で本学では令和2年度から教育課程の見直しに着手し、教育の質的転換の検討を行ったので概要を報告した。 木村弘子、保田洋、中野久美子、永藤清子、堀田浩之
14. 刊保育とカリキュラム 2023年4月号 特別附録 年の計画	共著	令和5年3月	ひかりのくに株式会社	毎年、月刊保育とカリキュラム4月号の特別附録となっている年間指導計画（年の計画）の校正紙に目を通し、各年齢の指導計画や解説等を精査し、内容は言葉遣い・誤字などの校正を行った。
15. 行事の製作 全部おまかせ！	共著	令和5年3月	ひかりのくに株式会社	行事に関係する製作を集めた1冊であるが、製作段階・作り方の整合性のチェックを通して行い、行事に関する由来については全て精査し、校閲・校正を行った。また、不足の部分には加筆も行った。
16. カリキュラムマップをベースとした学習成果の可視化システムの構築	共著	令和5年3月	甲子園短期大学紀要 第41号	近年推進されている高等教育のキーワードである「学習成果の可視化」に焦点をあて、ディプロマ・ポリシーの内容から卒業までに身に付ける能力を抽出しカリキュラムマップと対応させる学習効果システムを構築したことを報告した。 保田洋、木村弘子、中野久美子、堀田浩之、永藤清子

<p>(学術論文)</p> <p>1. 「保育内容総論」指導法へのアプローチ～月刊保育絵本を使った演習の試み～</p> <p>2. 日本における保育の指導計画の変遷－1943年から1946年の4年間を中心に－(査読付き)</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成 30 年 3 月</p> <p>令和 4 年 1 月</p>	<p>『飯田女子短期大学教育研究論文集』第 1 巻第 2 号 (20 ページ)</p> <p>大阪総合保育大学大学院博士前期課程修士論文</p>	<p>保育内容総論は幼稚園教職課程・保育士養成課程で必修である。今回それぞれの養成課程の見直しが進められ、平成 31 年度から新しいカリキュラムへの移行が決まっている。それを見越して、平成 29 年度保育内容総論の授業の中で月刊保育絵本を使った授業を試みてみた。今後の幼稚園教諭・保育士養成課程に向けてのより深い学びについて考える。(pp.45～64)</p> <p>戦前の保育雑誌『保育』に掲載された指導計画や保育内容が戦局・時局の進捗や変化にともなってどのように変遷していったか、実際保育現場では使われていたのかを明らかにした。また、戦後復刊した『保育』にどのように継承されたかをも詳らかにした。</p>
<p>(その他)</p> <p>1. 「保育雑誌の歴史と変遷～復刊・『月刊保育』と『保育カリキュラム(1)』</p> <p>2. 「保育雑誌の見る食と健康の取り組み」</p> <p>：</p> <p>3. 「月刊保育雑誌復刊『保育』では“体育”はどのように取り上げられてきたか？」</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成 24 年 5 月 4 日</p> <p>平成 24 年 6 月 17 日</p> <p>平成 24 年 9 月 16 日</p>	<p>日本保育学会第 65 回大会 東京家政大学</p> <p>日本食育学会第 7 回大会 名古屋経済大学</p> <p>日本幼児体育学会第 8 回大会 植草学園短期大学</p>	<p>ポスター発表 戦後の混乱期、保育雑誌『月刊保育』が保育界にどのような影響を及ぼしどのような役割を担ったかを明らかにした。</p> <p>基調講演 月刊『保育とカリキュラム』の前身である、月刊『保育』(復刊・昭和 20 年代)と現在の月刊『保育とカリキュラム』の中で食と健康がそのように取り上げられてきたか比較・検討し新たな食育への取り組みを提起した。</p> <p>講話 戦後間もない時代、幼児体育はどのように取り上げられていたかを月刊『保育』の記事や指導案から明らかにしていった。</p>

4. 職域の違いによる食育活動の現状		平成 25 年 6 月 15 日	日本食育学術会議第 8 回大会 越前市生涯学習センター	シンポジウム・パネラー 保育園・小学校・養成校・出版社とそれぞれの立場から食育をどう考え、食育活動を行ってきたかを具体例を挙げて示し、またこれからどう進めるべきかを議論した
--------------------	--	------------------	--------------------------------	---